

江戸時代には消滅した室町時代の村

室町時代の村落を新発見

それでは、キャンパス北部の台地以外に室町時代の生活痕跡は残っていないのでしょうか。吉田遺跡では、この問題が長らく未解決となっていましたが、平成21年(2009)年に実施したキャンパス南東端部の丘陵台地上での発掘調査によって、新たに室町時代の集落が確認されました。

動物医療センターの発掘調査

●調査面積 約200m² ●調査期間 平成21年1月5日～2月6日 ●確認された遺構 室町時代：掘立柱建物跡・溝

動物医療センターは、キャンパスの南東端部、標高約30mの台地上に立地しています。当館では平成18年度よりセンターの改修工事に伴う発掘調査を継続的に実施してきましたが、センター南域にて行った平成18年度・19年度調査では、奈良時代から平安時代にかけての遺構や遺物が集中的に発見されたため、センター北域で実施することとなった平成20年度調査においても同様の成果が予測されました。

調査を開始すると、予想に違わず多数の柱穴を検出。ところが、柱穴から出土する遺物は室町時代のものばかり。良い意味で予想が裏切られる結果となつたのです。

柱穴には重複が多数見られることから、同一地点で少しずつ場所を移動させながら幾度もの家屋や小屋の建て替えが行われたものと考えられます。その一方で、遺構から出土する遺物は14世紀から16世紀のものに限られます。つまりこの集落は、室町時代に突如出現し、江戸時代に至るまでに消滅したことになります。これを裏付けるかのように、江戸時代の地下上申絵図「吉田村」には該当地点に家屋が描かれていません。

これらの事実から、おそらくこの村落は農地拡大にともない他の村に集約されたものと想像されます。

遺跡地は南方をセンター建築時に、西方を犬舎建設時に破壊されているため、今後も範囲を明確にすることは困難と思われます。しかし北方に関しては農学部附属農場の農地となっているため、遺跡が良好に残っている可能性が高そうです。今後の調査でさらなる発見が期待されます。



吉田キャンパスで確認された室町時代の集落位置
(南から)



動物医療センター敷地で発見された柱穴群
(南西から)